

令和6年度1学期終業式 式辞

皆さん、おはようございます。校長の川崎芳徳です。

1学期の最終日にあたり、一言あいさつを述べさせていただきます。

さて、皆さん、どんな1学期だったでしょうか？

クラスにはすっかり慣れましたか。とりわけ、1年生の皆さんは、学校に慣れましたか。昨日、1年生の日本語小クラスの皆さんの発表会を観させていただきましたが、日本語の理解がとっても深まっていて、素晴らしい発表で関心させられました。次の発表会も、今から楽しみです。

今学期は大きな行事もありましたね。

5月には、3年生が沖縄へ修学旅行に行かれました。生涯、忘れることのない思い出になったのではないのでしょうか。また、4年次は、徹底的に勉強した学習合宿…今に生かされていることと思います。

6月には、生徒会執行部を中心に展開いただいた文化祭、開会式には高島芦屋市長もお見えでしたね。

舞台劇、有志ステージ、中庭ステージ、エキスポ、模擬店、各団体CM、学年旗、文化部のレベルの高さ、そして何より、文化祭への皆さんのエネルギー溢れる関わり方…私は、皆さんの素晴らしい才能に感心させられるばかりでした。どうか、自分自身をしっかり褒め、称えてくださいね。

運動部の総体も続いています。4月に放送で行った壮行会…私自身の経験から、「勝負、勝つまで勝っていない。負けるまで負けていない」というお話をさせていただきました…タイミングが合わず、残念ながら応援に行けなかった部もありますが、剣道、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳と、可能な限り皆さんの活躍を観させていただきました。そこでの姿は、学校の中で見ている以上に凛々しく、頼もしく、日々の練習で獲得したレベルの高いテクニックとともに、優勢であっても、また劣勢であっても最後まで全力を出し切ろうとする姿勢・精神力…まさに、「勝負、勝つまで勝っていない。負けるまで負けていない」を実践されている姿に大きく心を動かされました。

このような中、今、表彰式を終えましたが、上位に食い込んだ皆さん、誠におめでとうございます。次のステージへ大会が続く人には、さらなる活躍を期待しています。

部活動の大会以外でも活躍が見られました。先ほど表彰しました、5年次、早川りささんはバレエで、同じく5年次の山根ヘナタンショウレンさんは、中国語のスピーチコンテストで、1年の歳安 慶さんは、囲碁で県チャンピオンとして全国大会へ、また、2年の村本大河さんは、8月に静岡県で開催されま

す全日本U—18フットサル選手権大会へ出場されます。さらに、4年の山田美沙希さんは、チェスで、昨年、国内ユース選手権女子16歳以下の部優勝し、U—16チェスオリンピアードの日本代表としてオランダで参戦、つい先日は、ジャパンチェスクラシック2024に出場されました…皆さんの才能、努力、活躍には驚かされるばかりです。

皆さん全員、一人一人、それぞれに個性があり、「長所、短所、得意、不得意」があります。人生は、「長所、得意、持ち前」で勝負です。一人一人の素晴らしい「長所、得意、持ち前」を、まずは強く自覚してください。そして、自らを信じると書く「自信」としてください。

何かに取り組むとき、「短所、不得意」なことを頭に巡らせ、「私には無理、できない」と考えるのではなく、まず、「長所、得意、持ち前」を頭に巡らせ、これまで積み上げてきたことに自信を持って、「できる!」「できる!」「できる!」、「突破!」「突破!」「突破してみせる!」の精神で、目の前の悩ましいこと、課題を突き破って進んでいってください。

皆さんは、必ずできます! 私も全力で応援しています。

最後になりましたが、…夏休みの間、事故などに巻き込まれないよう、心と身体を大切に過ごしてください。もし、悩ましいことがあるときには、一人で抱え込まず、誰かに相談してください。身近に相談したい人がいないときには、スマホ等で検索すれば相談窓口も複数出ていますので、それらも利用してください。

では、44日間、持ち前の「楽力」で楽しく元気に過ごされ、9月2日、一回り大きく成長した元気な皆さんと再会できますことを楽しみに、以上、令和6年度第一学期終業式の「式辞」とします。

令和6年7月19日

兵庫県立芦屋国際中等教育学校
校長 川崎 芳徳